



通年コース第四・五回開催報告

「測量・測樹・施業診断」

『山を測って』

梅雨の雨と夏の陽射しの二日間。西春近のヒノキ林で人工林管理に必要なデータの収集と分析を行いました。

まず一日目は林地測量。コンパスを使って、林道や除地(主林木以外の木があるところ)

ろや何も生えていない部分など)を除いた林分の周囲を測りました。各点で測器を水平に設置して、次の点のポールを視準。メートル縄で斜距離を計測したら、方位角と高低角を読み取る。この作業の連



ポールを探して



梢をねらえ!

続でぐるっと一周林地を測つたら、斜距離を高低角に

応じて水平距離に換算し、方眼紙に合わせて縮尺を決め、製図です。一つ目の点から方位角方向に点間長さをとっていき、最後の点と最初の点との開きが誤差とその方向。誤差は出るのが当たり前。修正したら、三角形をつくって面積計算。これで広さがわかります。

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
編集 坂野慎治
題字 島崎洋路

す。二日目は、昨日と同じ現場で、測量した林分内に二十メートル四方などのプロットを設けての測樹。その中に生立する全ての木の直径を山側で、輪尺や直径巻尺を使って、胸の高さで測ります。続いて、太さに応じて選んだ木の樹高をワイゼやブルーメライスといった測高器を使って測ります。また、上層にあると思われる木を一本伐倒して長さを実測し、切り株で林齢を数えてみました。これで直径分布や生立本数・上層樹高・林齢がわかります。そしてここからは、現在の

健康診断と今後の森づくりの方向を決めていきます。相対幹距比や地位指数を用いて、込み具合や将来性を判断し、今どんな手入れが必要か、これからの間伐や収穫の計画をどう立案するか。十人十色、様々な山造り。そこが難しくもあり、おもしろいところでもあります。二日間お疲れ様でした。

通年コース 第四・五回

7月10日(金)

測量

8時40分

島崎先生の山小屋に集合。日程説明のあと、早川講師によるコンパス測量講義。斜距離・方位角・高低角を測りますが、磁針は黒い方を読むことや全体の手順について、続いてイントラ川島さんより方位の読み違いや視準の見方に関する注意説明がありました。

9時20分

班分け後、身支度をして分乗にて西春近の現場へ向かう。

10時

現場着後、各班毎に機材を準備して測量開始。小林班に分けた周囲測量の測点は各班10点ポールマンはメートル縄を曳きながら次点へ。ポールを垂直に立てて待つ間に次の測点を目視。機械マンは三脚の二本を谷側・一本を山側でコンパスを設置したら、盤面を水平にして磁針を解除。望遠鏡でポールを覗いて斜距離を計測。ポールマンへ合図を送って方位角と高低角を読み取る。磁針の固定を忘れずに次点へ。交代でこれらの作業を繰り返す。

11時40分

林地測量を終了し、機材を片付けて小屋へ。



直径巻尺で測るときは

12 時 20 分

昼食。

13 時 30 分

測量データ

の高低角から斜距離を水平距離に換算。製図の縮尺を決め、水平距離から図上の長さを出し、図上の起点を決め、方位角方向へ図上長さをプロットしていく。終点と起点の差が閉合誤差です。誤差を修正するときれいな図に。



出来た図面を重ねてみると

7 月 11 日 (土)

測樹・施業診断

8 時 30 分

島崎先生の山小屋に集合。

日程説明のあと、早川講師による測樹の講義。どんな項目を調べればいいのかや一斉人工林管理の考え方の説明を受ける。

9 時 30 分

昨日と同じ西春近のヒノキ林へ向かう。

10 時

測樹開始。測量範囲内にプロットを設定し、そこに生立している木の直径を胸の高さで測る。樹高は、数本を測量範囲内で選り、測高器で計測したあと、上層の一本を伐倒して実測。林

16 時 40 分

ミズホ銅機さんが、前回注文した山道具を持って来てくれました。
講師講評。終了、解散。

齢は切り株を地際で伐つて年輪を数えます。

11 時 50 分

測樹を終了し、小屋へ。

12 時 20 分

昼食。

13 時 30 分

昨日の「森林プランナー」講座の講師である藤原さんが来てくれたので、講座内容等についての質疑応答となりました。

14 時

測樹データをもとに、相対幹距比や地位指数を用いて、現状の健康診断と今後の計画を考えてみる。込み具合、山造りの目標、手入れの時期と方法。自分が山主だったら…。

16 時

各班的施業方針を発表。講師講評。

16 時 30 分

次回連絡をして、終了、解散。お疲れ様でした。

参加者/安部(貴)さん、安部(英)さん、池中さん、大槻さん、荻上さん、加藤さん、熊沢さん、栗本さん、島谷さん、武田さん、村田さん、熊木さん、園田さん

講師/早川講師
スタッフ/大野、川島、平林、坂野



専門コース第二回開催報告

『便利さと危しさと』

梅雨真っ只中の開催に雨天メニューを考えたりしていましたが、小雨はあったものの四日間ほぼ予定通り伐木造材を行うことができました。現場は、前回にも伐倒をした横山のカラマツ林。沢や草地などに接する周縁部の立木は外へ向かって傾き、傾斜部分に生えている木の重心は谷側、平らな林地に生立している木は直立しているように見えます。林縁木は内側へ倒した

い、傾斜地の木を山側へ伐倒するには…牽引する方法もありますが、今回は矢を使つて幹の重心移動を助ける伐倒を主に作業を行いました。傾きとは異なる方向への伐倒になるときは、あらかじめロープをセットし、受け口は通常通りで、追い口に矢を打ち込むこととなります。矢の種類や打ち込む距離によって重心移動の大きさが変わってきますが、追い口を伐り進ん



足場を固めて

でも矢を挿入できる幹の太さがあるかを伐倒前に判断する必要があります。チルホールなどの牽引に比べて便利な道具ですが、通常とは違う追い口伐りになるなど危険な場面があることを体験しながら、作業を重ねていきました。四日間お疲れ様でした。

専門コース第二回開催

7 月 1 日 (水)

～ 4 日 (土)

一日目

8 時 25 分

島崎先生の山小屋に集合。講師挨拶。現場の説明。

8 時 35 分

横山キャンプ場のカラマツ林へ。

9 時

機材を準備して、伐倒開始。矢を使った伐倒の特徴・注意点とその使い方を早川講師から説明を受け、平らな林分で実践してみ

12 時 10 分

現場で昼食。

13 時 10 分

作業再開。傾斜部分に生立している木を山側へ倒す試み。枝張りが谷側へ出ているので反対方向への伐倒となる。根元直径も矢を使うには小さく、結局チルホールで牽引となった。

15 時 50 分

作業を終了し、小屋へ。



矢を使って重心移動

16時15分
講師講評。終了、解散。

二日目
8時25分

鳥崎先生の山小屋に集合。早速現場へ。ところが、山小屋では曇りだったのが、現場へ来ると雨になったので、山菜採りなどをしながら天候の回復を待つことに。

12時
を除いた直材に。現場にて昼食。

13時

伐倒再開。通常伐倒を継続。途中、イントラ川島さんが様子を見に来てくれる。

16時45分

作業終了し、小屋へ。

17時15分

講師講評。終了、解散。

10時

雨が上がったので機材を準備して伐倒を開始。緩やかな斜面のカラマツを通常伐倒する。造材は、曲がり

三日目
8時30分

鳥崎先生の山小屋に集合。講師挨拶のあと、伐倒方法

の復習をしてから現場へ向かう。

9時30分

伐倒開始。林縁部のカラマツの矢を使った伐倒を開始。傾きと異なる方向への伐倒でチェーンソーを挟まれたときは、キャタトラで牽引となりました。

12時

現場にて昼食。

13時

矢を使った伐倒を再開。伐倒木にあらかじめロープをセットしておく。矢の重心移動だけで倒れない場合は、ロープを牽引することとする。

16時50分

作業終了し、小屋へ。

17時15分

講師講評。終了、解散。

四日目
8時30分

鳥崎先生の山小屋に集合。講師挨拶のあと、早速現場へ。

8時45分

現場近くでチェーンソーの目立て。

9時30分

伐倒開始。今日もロープを保険に矢を使った伐倒を比較的平らな林分で。また、チルホールを用いた牽引伐倒も試してみる。

12時15分

現場にて昼食。

13時15分
伐木造材を再開。沢に接した周縁部のカラマツをロープと矢で伐倒していく。

15時40分

作業終了し、小屋へ。

16時15分

伐木造材の技量について自己評価してみる。

16時45分

講師総括。終了、解散。お疲れ様でした。

参加者/小林さん、田村さん
講師/早川講師
スタッフ/坂野

次回以降の予定

集中コース夏の部

8月6日(木)

8月8日(土)

お待たせしました、KOA 森林塾のエキスを集めた三日間の集中コース夏の部開催です。樹を測る測樹やチェーンソーの使い方と樹の伐り方、そしてウインチを用いた簡単な集材まで一通りのことをやってみます。また、初日の夕方は、バーベキューで一杯やりながら交流会。
あれやこれや盛りだくさんですが、何かひとつでもお持ち帰りいただければ幸いです。

初日は9時、二日目・三日間は8時30分に、鳥崎先生の山小屋に集合です。

第六・七回

8月21・22日(金・土)

間伐・集材

特別講師の鳥崎先生による保残木マーク法の考え方と間伐・単集材。二日間ともに測量・測樹の現場で開催します。

一日目は、前回の施業方針から残す木を選び、保残木マーク法の考え方に触れ、測量範囲の林分を間伐。二日目は、間伐の続きと、「ひっぱりだこ」という簡単なウインチを使った集材を行う予定です。マイ装備・マイ道具、ご持参下さい。

両日ともに8時30分、鳥崎先生の山小屋に集合です。

また、初日夕方からは、バーベキューで一杯、暑気払いをしましょう。山小屋宿泊可。会費は千円程度の予定です。幹事さん募集中。寝袋をお持ちの方はご持参願います。



リレー通信

「愛する山や海のために」

安部 貴美子



海は泣いている

わたしは愛知県の三河湾に面する海辺の町で生まれ育ちました。奥三河に源流を發する矢作川が海に流れ出す最下流に開けた干拓の町です。古くから醸造業がさかんで、江戸や大阪などと海運で結ばれ栄えてきた豊かな港町でした。海は昭和三十年代ごろまではとてもきれいだっただけです。夏ともなれば美しい海水浴場は遠方から来る海水浴客でにぎわったというはなしです。「はなしです」というのは、そんな美しい海を、わたし自身は知らないからです。わたしの知っているのは、汚く濃緑色に濁った海、プラスチックや発砲スチロールのゴミが打ち寄せている海水浴場。とても泳ぐ気持ちになれないような悲しい砂浜の光景です。四十年代には、海

はどんな理め立てられ、大きな工場や発電所などが次々に誘致されて砂浜はなくなりまし。そして今、臨海部の方向を眺めるとあやしい黒煙が工場のおちの煙突から立ち昇っています。悲しいのは、父が泳げた海が、もうわたしの代には泳げなくなっているということ。かつての時代にもなかったような環境破壊がごくあたりまえに行われた、そのときに生きているのが自分だということ。海とともに生きてきた人々の暮らしや風土が消えて、自分にながる父母の、そのまた前に遡る命のつながりを喪失してしまったような悲しさ。ただか十年前か二十年という、自然の営みのなかのほんのわずかの時間に、このように無残な破壊をした人間のひとりとして、自分もまたこのことの責任を負って生きていかねばならないと思います。

山の民への憧れ

母は高知県の吉野川渓谷から入った山奥の生まれです。小さい頃はたびたびそこへ連れて行ってもらい、山や川で遊びました。もともと平家の落人が住み着いたというような境界ですから、随分ひびきた暮らしだったと思うのですが、わたしの思い出のなかには山奥の因習や暮らしの暗々しいものは少しもなく、明る

く素朴で喜びに満ちた山暮らしの楽しさだけが残っています。祖父からよく、狩りや山仕事の途中で動物たちに化かされて一日山中をさまよったというはなしを聞いたもので、さすが、こども心に山のなかで練り上げられる摩訶不思議な世界に高揚を感じたものでした。山というのはまさに、人間が自然の一隅に仮住まいする生き者として持つべき慎ましさと、木や獣をあいてに生きていくたおやかな野性とを喚起させてくれる場として、いかにも魅力的であり、自分につながる過去の人々がおおらかに自然と共生してきたことを教えてくれる場所でした。

木や獣の声が聞きたい

自分が子どもを産んで育てるようになり、今の子どもたちを取り巻く環境があまりにも管理的で画一的で、息が詰まりそうなものであることにとても危機感をおぼえます。



人間にはもつと野性があるはずなのに、時代も教育も、もつといえ日本という社会全体が、荒々しくむき出しの野性を内包する本来の人間の姿を否定して、極度に文化的に造りこまれた骨抜きの人間像だけを目指してしまっているような気がします。「ものけ姫」というアニメがありました。人間が自然に対して行った所業にうらみを抱き、獣になりかわって人間に復讐を謀る少女が主人公。この少女は木の精霊や森の神、獣たちとも会話ができます。人間のうちの半分の人でもこの少女のようであつたら、人間と自然の歴史は違っていたのではないかと思えます。もともと人間は自然と会話する力を持っていて、現代人はその力をまったく封印してしま



たなら、人間と自然の歴史は違っていたのではないかと思えます。もともと人間は自然と会話する力を持っていて、現代人はその力をまったく封印してしま

まっているだけなのではないですか。自然と和解するために、わたしも、木や獣と話し心通わせることができるよう、野性をとりもどしたいと願っています。

女でもできる山仕事を探して

女性が山仕事をしたいと言ったとき、山のことをあまり知らない人たちはだいたいい、「女じゃ無理だ」という意味のことをいいます。ちがうんじゃないかな、山造りのプロは決してそんなことは言わないだろうと、森林塾の門を叩きました。森林塾には女性で活躍されている方もおられます。林業家など専門家の存在も大事ですが、その人それぞれの暮らしとともにあるさりげない山仕事のあり様も大事だと思えます。さてそこで、私にできることは何だろう。答えを一年間探っていました。

樹の「丁字」

丁字徴

落葉広葉樹 ばら科 桜属

染井吉野の派手さにくらべると、ぐつと地味な花を咲かせますが、なんとはない風情のある桜です。大木になつても、満開の丁字桜は清楚に咲いていて、私はこの地味な桜



がとても好きです。花は葉の展開前かほぼ同時に開花し、前年枝の葉腋に白色又は淡紅色の花が散形状に1〜3個下向きに咲かせます。花の形は他の桜に比べ、萼筒が七〜十mm長くなっているのが、この桜の一番の特徴で、花を横から見ると「丁字」に見え、名の由来もそこからきているそうです。

葉も他の桜に比べ特徴があり、葉の先端が、尾状に長くとなり、葉の縁には欠刻状の重鋸歯があり、葉の両面には毛が密生していて、触るとふかふかして、とても手触りがいいです。他の桜の葉には触って解るほどの毛がないので、これが見分ける点になります。又、桜には蜜腺が有り、葉柄、或いは葉柄の上端にあるので、他の種との区別も出来るので、桜であるとわかります。

私が初めてこの樹に出会ったのは、二年前のまだ春浅い時期の現場でした。道の脇にりつばな大木があり、おそらく桜だろうとは検討がついたのですが、何桜だかはわからず、花が咲くのを楽しみに待っていました。何度か現場を訪れる内、蕾が付き開花したとき初めて丁字桜だとわかりました。ほとんど人の来ない山の中で、春の柔らかな陽光を受けて、ひそやかに咲いている姿は、ほんとうにきれいで印象的でした。この現場のほかに、二カ所咲いている所を知っていますが、この丁字桜はあまり見かけないので大事にしたい樹です。

「鶯」

おわりに

近年は、梅雨明け後にゲリラ豪雨が発生しているようで、夏本番の暑さはもちろんです。雨の降り方にも要注意です。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994



E-mail:
sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp